児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、問題や課題に取り組もうとしている。創意工夫をして、粘り強く取り組もうとしているが、なかなか成果が得られないでいる生徒もいる。

学び続ける力を育むための重点目標

〇子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	目標値(6 月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.0 (79.8)	
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	75.0 (68.7)	

教員調査	目標値(6 月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、生徒が学び方を選択する場面を設定している。	85.0 (85.0)	
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	81.0 (85.0)	

具体的な手だて①

学習内容や学習計画を単元の初めに示すとともに、授業の最初に授業の目標や流れを示し、見通しをもたせる。
問題や課題に取り組めるように、進捗状況を確認し、声掛けや助言をする。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。

・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

総括(7 月)

MNE の学習状況調査の結果から、最後まで粘り強く取り組むという生徒は、約 69%いる。しかし、学力調査の結果から、国語の本校の平均正答率は、50%(全国 54%)、数学の本校の平均正答率は、40%(全国 48%)となり、取り組んでいた生徒へは、今後成果につながる学習指導の継続が教員の課題である。一方、約31%の粘り強く取り組めない生徒がいる。この生徒へ、声掛けや、取り組める環境の構築が、教員の課題である。そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)